

令和4年度広島県（広島市）地域社会なぎなた指導者研修会〔中学校武道必修化特化型〕

期 日：令和4年10月29日（土）～30日（日）

会 場：広島県立総合体育館

中央講師：今浦 千信（教士） 廣岡奈緒美（教士）

地元講師：後藤美智恵（教士） 永井 弥生（錬士）

参加者：36人

内 容：

【10月29日（土）】

初日は、参加者を2つのグループに分け、実技を中心に行われた。なぎなたを専門としない学校教諭は今浦千信講師、後藤美智恵講師が担当した。今浦講師は、武道の礼法・間合・残心などを説明し、「武道の授業では、伝統的な行動の仕方を学ぶことができる。他の体育種目では学ぶことのない領域にもアプローチでき、日常生活にも生かすことができる」とし、武道を学校体育で取り組む意義を説明した。その後、なぎなたの長さ、重さ等の基礎的な内容を説明。実技として、立ち方、座り方、なぎなたの扱い方の基本動作を説明した。基本動作の後には、打ち返しを行い、今浦講師と後藤講師による模範も行われた。武道授業における評価方法にも触れ、学校教諭の参加者と共に、評価の観点を議論する場面も見られた。なぎなたを専門とする地域指導者と学校教諭は、廣岡奈緒美講師、永井弥生講師が担当した。八方振り・基本打突から実技に入り、しかけ応じの練習では、参加者同士で動作を確認し合った。

初日の最後には、ロックバンドのWANIMAの楽曲『やってみよう』に合わせて、リズムなぎなたを全員で練習した。4人一組で、礼、構え（中段・八相）、体さばき（送り足・歩み足・開き足・継ぎ足）、打ち返し等の基本技能を盛り込み、各グループが創意工夫してリズムなぎなたの演武を完成させた。

【10月30日（日）】

2日目は、今浦講師による講義「武道必修化におけるなぎなた授業の実際」から始まった。武道必修化の経緯の説明から入り、なぎなた授業の採用状況を示すと共に、指導者の確保・指導方法の体系化・教員が指導から評価までできる体制の整備・生徒の興味関心を高める・段階的な指導を行うことができる体制の整備、以上の要件が揃えば、なぎなたの授業を履修することができる」と説明した。また、採用数が他の武道種目と比較して少ない要因を、用具・指導事例・指導者の不足とし、なぎなた授業採用に向けた対策として、全日本なぎなた連盟が実施している対策（用具の借用、指導案の共有、授業協力者の推進等）を説明した。

講義の後は、初日に専門としないグループで練習した立ち方、座り方、なぎなたの扱い方、構え、体さばきを全員で行った。その後、6つのグループに分かれ、グループ内で先生役と生徒役を入れ替えながら、1対多数の体さばき・打ち方の指導方法を練習し、その後は相対で打ち返しを行った。午前の最後には、「打ち返し選手権」と題した競技会を行い、参加者それぞれが選手・審判・招集・コール・記録の役を担い、大きな盛り上がりを見せた。午後は、しかけ応じをグループごとに練習し、最後に質疑応答を行い、研修会の全日程を終えた。



「打ち返し選手権」の様子